

### 第21期第3回理事会議事録

日時 昭和56年5月27日(水) 18.00~19.30

場所 日本教育会館

出席者 常任理事：岸保，小平，浅井，荒井，内田，河村，黒木，竹内，二宮，松本，増田，村山

理事：伊藤(宏)，伊藤(昭)，菊地，坂上，田中，武田，山元

#### 議題 1. 春季大会の準備について

(1) 理事長あいさつ(案)

(2) 昭和55年度事業経過報告(案)

以上原案承認

(3) 昭和55年度決算書(案)

荒井会計理事から次のとおり説明があり原案が承認された。

a) 支出で法人税の見直しが行われ、「気象研究ノート」を収益とみなされて租税公課が約51万円となった。

b) 基本財産に200万円を繰入れた。

c) 記念事業の予算は、計画案では950万円であったが、具体的な案に基づいてこれを1050万円とし、今年度積立預金を500万円とした。

d) 全体の収支決算は、予算額と大差なく執行できた。

以上の報告に対し

基本財産に200万円繰入れてあるが、各支部へ還元すべきではないかとの意見がでた。この件については来年度検討することになった。

(4) 昭和55年度監査報告

荒井会計理事から、田中監事の転出に伴い、5月8日名瀬から出張して貰って監査を受けたこと。また、当舎監事が病氣療養中のため、佐藤事務局職員が資料を持参のうえ説明し、監査を受けたことが報告された。なお、監査内容については、小平庶務理事から報告された。

(5) 昭和56年度事業計画(案)

原案承認

(6) 昭和56年度予算書(案)

荒井理事から、編成内容について次の

とおり説明があった。

a) 個々の内容については多少の増減があるものの、全体からみれば前年度と大差はない。

b) 今年度から学会事務室の賃借料33万円を計上した。

c) 管理費、事業費の印刷製本費の支出減については、前者が会員名簿、選挙関係用紙等の印刷がなくなったこと、また、後者は、「続・気象学への手引」の発刊が終了したことによる。

d) 通信運搬費の支出増は、郵便料金の値上げによるものである。

e) 臨時雇賃金の支出増は、「学術用語集」の改訂のためと、事務室の移転、倉庫整理等によるものである。

(7) 1050万円の積立金による100周年記念事業計画書(案)も原案通り承認された。

#### 2. 100周年記念事業について

小平準備委員長から、5月9日の常任理事会で提案された記念式典のことについて報告があり、原案が承認された。

出版物にマークをつける、封筒に100周年を表わす文字を入れる、またワッペンを作ってはとの発言があり、今後の検討事項となった。

#### 3. 気象研究所有志からの「測候所の夜間閉鎖に関する要望書」について

気象学会としては「気象学」の立場からこの問題を見ることとし、一部測候所の夜間観測の廃止が調査・研究にどのような影響を及ぼすかについて、長期計画委員会において検討することとした。

#### 4. 1985年 IAMAP の総会について

地震学会が総会を実施することになり、中止することにしたいが、要請があった場合は、会員に了解してもらい、気象学会が独自でやるようになるかもしれない。

#### 5. 昭和57年度秋季大会の当番支部について

北海道支部をお願いすることにした。

(592頁に続く)

説明であるが、一般会員にとって50万円は、会員1人当たり190円になる。どのようなことで査定を受けたか説明して欲しい。

答 これは、さきに説明したとおり、「気象研究ノート」収入が全額課税の対象となり税金がかかったもので、このことについては、機関誌上で会員にお知らせする。

議長 ほかに質問がないようでしたら、承認していただく前に監査報告をお願いします。

### 9. 昭和55年度監査報告

黒木理事から次のとおり報告された。

田中監事が4月1日付けで名瀬へ転勤となったので、5月8日に田中監事に出張してもらい監査を受けた。また当舎監事が病気療養中のため、こちらから出張して監査を受けた。その結果が別紙のとおり報告された。(報告内容、別紙収支計算書の5頁参照)

以上、昭和55年度決算報告、監査報告について、議長が賛成者の挙手を求めたところ、圧倒的多数の挙手があったので承認された。

### 10. 昭和56年度事業計画案

小平理事から、次のとおり説明が行われた。

- (1) 「天気」「気象集誌」「気象研究ノート」を、なお一層充実したものにし、「天気」に“「ひまわり」の画像から”を引き続き掲載する。
- (2) 春季大会は、5月27日から5月29日まで、日本教育会館で開催し、講演発表数も236編の多きに達している。大会第2目目に総会が行われ、森山 茂会員、浅野正二会員にそれぞれ学会賞を、榎山政子会員に藤原賞を、また安成哲三会員に山本賞を授与する。
- (3) 秋季大会は、12月1日から3日まで愛知県中小企業センターで開催する。大会第2目目に奨励金を授与する。
- (4) 夏季大会は、8月10日から13日まで日本教育会館で行う。テーマは熱収支と気候変動である。また、大

阪でも引き続いて8月4日から6日まで大阪市立労働会館で行う。テーマは大気の流れである。

- (5) 気候変動シンポジウムを引き続いて開催する。
- (6) 山の気象シンポジウムを6月20日気象庁で行う。また各種月例会も引き続いて行う。
- (7) 来年に迫った100周年記念事業については、それぞれの担当分野で精力的に準備を進めてゆく。

議長 次の昭和56年度予算書(案)が終ってから質問を受けます。

### 11. 昭和56年度予算書(案)

荒井理事から、別紙資料にもとずき、予算編成の方針と内容について次のとおり説明が行われた。

前年度と大体同じで特に大きな違いはない。

- (1) 管理費の印刷製本費は、選挙関係用紙類の印刷、名簿の作成等がなくなったため大幅な支出減とした。
- (2) 昭和56年度から建物借料として、年間33万円を気象庁に支払うことにした。
- (3) 臨時雇賃金が増えたのは、「学術用語集」編集と倉庫整理等に要する賃金である。
- (4) 事業費の印刷製本費は、「続・気象学への手引」の発刊がなくなったので支出減とした。

なお、学会創立100周年記念事業計画書(案)も別紙のとおり説明が行われた。

議長 昭和56年度事業計画(案)、予算書(案)についてご審議願いたい。質問がないようですから賛成の方の挙手をお願いしたところ、圧倒的多数で承認された。

### 12. その他

昭和57年の秋季大会は、北海道支部が当番に当るのでよろしく願います。

議長 以上で私の議長としての任務を解かせていただきますが、皆様の御協力によりまして、議事が円滑に終了しまして誠にありがとうございました。

(589頁より続く)

### 6. その他

田中理事から POLEX ニュース が配布に

なり説明があった。

承認事項：高橋日出男ほか17名の新入会員を承認。